

# 『大空港構想 Next Stage』

(熊本都市圏東部地域グランドデザイン)

平成28年12月

熊 本 県

# 目 次

第1章 はじめに	1
1 策定の趣旨	
2 策定の基本的な考え方	
3 構想の位置付け	
4 構想の対象地域	
5 構想の期間	
第2章 空港周辺地域のポテンシャル	5
第3章 全体の将来像	6
1 全体の将来像	
2 地域への投資を呼び込む3つの視点	
第4章 目指す姿	8
第5章 創造的復興の実現に向けて	16

# 第1章 はじめに

## 1 策定の趣旨

阿蘇くまもと空港の周辺地域は、空港や益城熊本空港 I C 等の交通結節点や先端産業の企業等の集積があり、熊本都市圏のベッドタウンとしても人口が増加するなど発展してきた地域です。

また、本県では、阿蘇くまもと空港とその周辺地域を一体のものとして「大空港」と捉え、地域の可能性を掘り起こし、その最大化を図る取組みとして「大空港構想」を進めてきました。

しかしながら、平成 28 年 4 月 14 日及び 16 日の 2 度にわたり震度 7 の激震が発生した平成 28 年熊本地震（以下「熊本地震」という。）により、阿蘇くまもと空港の周辺地域は、建物の倒壊、宅地の亀裂・陥没や擁壁崩壊、道路の閉塞・寸断、空港ターミナルビルの損傷等、熊本県内でも特に甚大な被害を受けました。

この『大空港構想 Next Stage』（以下「本構想」という。）は、「大空港構想」における対象地域を踏まえ、熊本地震により甚大な被害を受けた熊本都市圏東部地域である益城町、西原村及び熊本市東部地区並びに大津町及び菊陽町（以下「空港周辺地域」という。）の持つ可能性を引き出し、創造的復興を推進するランドデザインとして策定するものです。

## 2 策定の基本的な考え方

阿蘇くまもと空港を熊本地震からの創造的復興のシンボルとし、空港のポテンシャルを最大限に引き出し、空港周辺地域の活性化につなげることを目指します。

交流・物流の拠点となる阿蘇くまもと空港や益城熊本空港 I C を最大限に活用し、広域的かつ長期的視点から、当地域の再生・発展に向けた将来像やデザインなどを示すものです。

県と市町村が密接に意見交換・連携し、このデザイン自体を進化(深化)させつつ、市町村の復興計画との整合を図りながら取組みを進めていくこととします。

### 3 構想の位置付け

本構想は、これまで本県が進めてきた「大空港構想」の対象地域と熊本地震により甚大な被害を受けた地域がほぼ同一であり、これまで進めてきた取組みの成果を活かしながら、「大空港構想」を更に充実・発展させるものであり、かつ、阿蘇くまもと空港の周辺地域の創造的復興に資するグランドデザインとして位置付けるものです。

#### (1) 「大空港構想」について

「大空港構想」とは、九州の中央に位置する阿蘇くまもと空港とその周辺地域を一体のものとして捉え、その地域の可能性を引き出し、その最大化を図ろうとする構想で、平成24年度より本県で取り組んでいます。

これまで、新規航空路線の誘致による交流人口の拡大や九州における広域防災拠点化などに取り組み、その成果が着実に現れてきました。

##### (主な取組み・成果)

- ・台湾高雄線・香港線の定期便就航・熊本初のLCC就航
- ・空港ライナーの試験運行や道路整備等による空港アクセスの強化
- ・デジタルサイネージ、無料Wi-Fiの設置等による空港のスマートエアポート化
- ・国内私大唯一の訓練環境を活かしたパイロットのふるさとづくりの推進
- ・第2空港線沿線における民間駐車場統一看板の設置、沿道緑化による景観向上
- ・県による防災用駐機場等の整備や国による「大規模な広域防災拠点」としての選定など、九州を支える阿蘇くまもと空港の広域防災拠点化 など

#### (2) 「くまもと復旧・復興有識者会議」の提言を受けて

熊本地震の発生後、五百旗頭真座長のもと、今後の熊本の更なる発展の礎となる「創造的復興」が議論され、平成28年6月に提言がまとめられ、熊本都市圏東部地域の復旧・復興について次の提言が行われました。

特に甚大な被害を受けた熊本都市圏東部地域については、熊本県経済を牽引する県央拠点として、広域的・長期的な発展を期す“グランドデザイン”を描き、県と地元自治体が住民の意向を緊密に確かめながら、まちづくりを進めること。(要旨)

(3) 「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」との関係

上記の提言を踏まえ、本県が熊本地震からの創造的復興を目指して平成28年8月に策定した「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」において、次のとおり明示しています。

「甚大な被害を受けた阿蘇くまもと空港をはじめとした益城町、西原村及び熊本市東部地区の創造的復興を推進するグランドデザインとして、ターミナルビルの今後の姿を含め周辺地域の可能性を最大化する「大空港構想 Next Stage」を年内を目途に策定します。」（要旨）

(4) 「熊本復旧・復興4カ年戦略」との関係

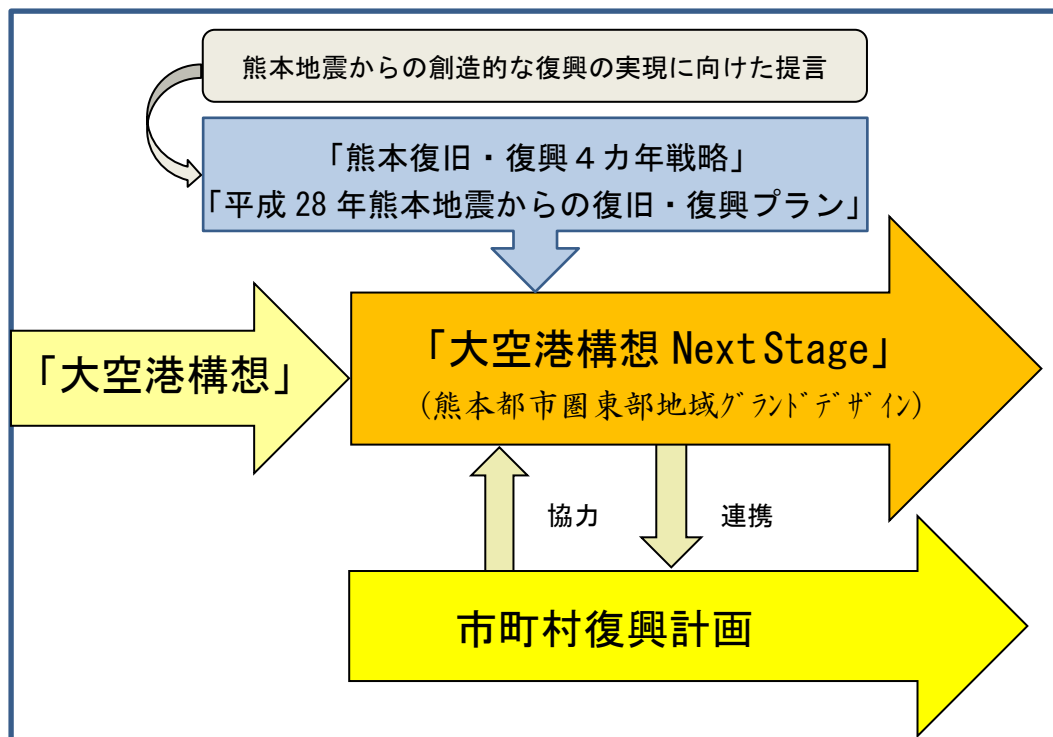
上記の復旧・復興プランを基本に、県政の基本方針として平成28年12月に策定した「熊本復旧・復興4カ年戦略」において、次のとおり明示しています。

災害に強い熊本都市圏東部地域の発展に資するよう、関係市町村と連携協力しながら、復興のグランドデザイン(「大空港構想 Next Stage」)を策定のうえ、県道熊本高森線等の道路整備、阿蘇くまもと空港ターミナルビルの復旧・機能強化など、熊本地震からの創造的復興のシンボルとなるまちづくりを支援します。

阿蘇くまもと空港等の創造的復興を推進するグランドデザイン「大空港構想 Next Stage」に基づき、関係機関と連携のうえ、阿蘇くまもと空港ターミナルビルの復旧及び機能強化に取り組みます。（一部抜粋）

(5) 市町村計画との関係

本構想は、市町村の垣根を越えた広域的な取組みを示すものであり、同時に、市町村の復興計画と連携協力しながら、県と市町村のそれぞれの役割に応じて、創造的復興への取組みを進めます。



#### 4 構想の対象地域

本構想は、「大空港構想」における対象地域を踏まえ、甚大な被害を受けた阿蘇くまもと空港の周辺地域（益城町、西原村及び熊本市東部地区並びに大津町及び菊陽町）を対象とします。

#### 5 構想の期間

本構想の期間は、市町村が策定する復興計画との整合等を図り、平成28年度から概ね10年間とします。

なお、甚大な被害を受けた地域が対象であり、更に長期的視点（15～20年）に立って取り組むべき課題もあります。

## 第2章 空港周辺地域のポテンシャル

空港周辺地域は、熊本の空の玄関口である阿蘇くまもと空港や陸の玄関口である益城熊本空港 I C などの交通結節点を有し、産業振興に重要な地理的優位性を活かし、様々な企業が進出するとともに、研究産業拠点や流通拠点等が形成されました。一方で、古くから農業が盛んであり、土地利用型農業や畜産業も発展してきました。

また、熊本都市圏東部に位置する立地性を活かし、熊本都市圏のベッドタウンとして発展するとともに、阿蘇の玄関口である緑豊かな田園地帯として移住人口も増加してきました。

特に、阿蘇くまもと空港は、昭和46年4月の開港以来、熊本の空の玄関口として、これまで延べ約1億人が利用しており、近年では毎年約300万人を超える旅客者が利用し、特に東アジアを中心とするインバウンドも増加してきました。更に、南海トラフ地震等に備え、九州を支える広域防災拠点にも指定され、機能強化等を進めてきました。

以上より空港周辺地域は、次のようなポテンシャルを有する地域です。

### <ポテンシャル>

- 阿蘇くまもと空港や益城熊本空港 I C 等の主要な交通結節点が立地する交通至便な地域
- 空港や I C 近傍の立地特性を活かした物流、研究産業拠点が形成されており、更なる企業集積が見込まれる地域
- 熊本都市圏東部に位置する立地性を活かしたベッドタウンとして高質な生活空間の提供が可能な地域
- 阿蘇の玄関口としての利点を活かした観光産業の発展や移住人口の増加が見込まれる地域
- 省力化や大規模経営化等により土地利用型農業や畜産業の発展が見込まれる地域

## 第3章 全体の将来像

### 1 全体の将来像

甚大な被害を受けた「空港周辺地域」のポテンシャルを最大

限に活かした **創造的復興** の実現

⇒ **「熊本県経済を力強くけん引する地域」**  
**「誰もが安心して便利に暮らせる地域」**

空港周辺地域の中核である阿蘇くまもと空港は、熊本の空の玄関口であり、熊本を訪れる旅行者やビジネス客が初めて降り立つ熊本の顔ともいえる施設です。

九州におけるアジアのゲートウェイ化を目指し、これまで以上に交流人口の拡大を図るために、空港ターミナルビル等の復興に当たっては、ただ単に元にあった姿に戻すのではなく、創造的復興の観点からの整備・機能強化が必要です。

また、阿蘇くまもと空港の創造的復興は、これまでの研究産業拠点等を有する立地特性を更に有効に機能させ、ICT 等の時流を捉えた新たな産業の創出等につなげる可能性があります。**阿蘇くまもと空港を含む空港周辺地域全体が創造的復興を遂げることにより、同地域が熊本県経済を力強くけん引する地域**となるように取組みを進めます。

多数の家屋被害や宅地被害を受けた空港周辺地域では、移転等による人口流出が懸念されます。また、従前の土地に留まる方々にとっても住家付近に活断層が通る地でそのまま生活することに対する大きな不安があります。これらの懸念や不安を払拭し、誰もが安心して暮らすことができるよう、市町村が進める防災減災型まちづくりの取組みを支援します。また、熊本都市圏のベッドタウンとして、日常生活の利便性が高く住みやすい**誰もが安心して便利に暮らせる地域**の実現を目指します。



## 2 地域への投資を呼び込む3つの視点

空港周辺地域が活性化し、更に発展するためには、当地域への産業（雇用）を生み出すための新たな投資が不可欠であり、産業界や研究機関、金融機関など各界の総力を結集して、創造的復興に取り組む必要があります。

そのため、地域への投資を呼び込むために、①積極的な「民間活力」の導入、②様々な産業分野でのICT、IoT等の活用による「イノベーション」の創出、③先駆的な事業の実施や復興のまちづくりのための「柔軟な制度運用」の3つの視点を掲げ、空港周辺地域の創造的復興に取り組んでいきます。

地域への投資を呼び込む3つの視点

**①民間活力 ②イノベーション ③柔軟な制度運用**

## 第4章 目指す姿

第3章に掲げた『全体の将来像』の実現に向けて、阿蘇くまもと空港が熊本地震からの創造的復興のシンボルとして、また、地域活性化の起爆剤となるよう創造的復興に向けた取組みを進めていきます。

さらに、阿蘇くまもと空港の創造的復興を起点として、この「空港」の活性化が「産業」や「暮らし」の分野に波及させるよう取組みを進めていきます。

### 目指す姿

#### 空 港

#### 創造的復興のシンボル・起爆剤

- 九州中央に位置する阿蘇くまもと空港の創造的復興による交流人口の増大
- 渋滞や待ち時間が少ない、スムーズな空港アクセスの実現
- 九州の安全安心を支える広域防災拠点の実現

空港の活性化を産業・暮らしに波及

#### 産 業

##### 新たな産業や雇用の創出

- 柔軟な制度運用による農商工連携・6次産業化促進や地域資源を活用した新事業の展開
- ICT等の活用による時流を捉えた新たな産業の創造
- 空港やIC、阿蘇の玄関口としての利点を活かした観光産業の振興・発展

#### くらし

##### 住みたい、暮らしやすい地域の実現

- 災害に強く、安全安心なまちの実現
- 利便性が高く、生活しやすいまちづくり

## 空 港 創造的復興のシンボル・起爆剤

- 九州中央に位置する阿蘇くまもと空港の創造的復興による交流人口増大
- 渋滞や待ち時間が少ない、スムーズな空港アクセスの実現
- 九州の安全安心を支える広域防災拠点の実現

### ●空港ターミナルビル等の創造的な復興・機能強化

熊本地震からの創造的復興のシンボルとして、また、地域活性化の起爆剤となるよう、空港ターミナルビルの創造的な復興、機能強化に取り組みます。

(主な取組例)

- ・熊本地震からの創造的復興に向けて、地震をはじめ大規模災害時にも機能し得る耐震性や耐久性を持ち、かつ、高い利便性を兼ね備えた国内線ターミナルビルと国際線ターミナルビルの一体的整備に取り組みます。
- ・これらをより効果的に実施するために、滑走路・ターミナルビル・駐車場の一体的な運営を民間に委託する「公共施設等運営権制度」いわゆる「コンセッション方式」の導入を目指します。
- ・更なるエアラインの新規就航や増便に対応できるようにするため、エプロンの増設等の環境整備や利便性向上の取組みを推進します。

### ●阿蘇くまもと空港の更なるネットワーク拡大

九州におけるアジアのゲートウェイとして交流人口の増大を図るため、更なるネットワークの拡大に取り組みます。

(主な取組例)

- ・国内線と国際線が一体となったターミナルビルのメリットや、委託された民間会社を中心としたネットワークなどを最大限に活用し、国内線の増便やLCC等新規路線の誘致に取り組みます。
- ・外国人観光客の増加を図るため、その実現の第1歩として、現在運休している国際線定期便（香港線・ソウル線）の早期再開に向けて集中的に取り組みます。

- ・県内の観光資源を磨き上げ、海外への観光プロモーションを展開するなど、外国人観光客の誘致に積極的に取り組み、国際線定期便の利用促進による増便や更なる海外新規路線の就航誘致を図ります。

## ●阿蘇くまもと空港へのアクセス改善

阿蘇くまもと空港利用者の更なる利便性向上を図るため、空港へのアクセス改善に取り組みます。

(主な取組例)

- ・阿蘇くまもと空港からJR肥後大津駅までを結ぶ無料の空港ライナーを本格運行へ移行し、空港利用者の利便性向上及び空港アクセスのリダンダンシー（多重性）確保に取り組みます。
- ・阿蘇くまもと空港の最寄り駅であるJR肥後大津駅に「阿蘇くまもと空港」をイメージさせる愛称を付けることにより、空港から最も近い駅というイメージと鉄道利用による空港へのアクセス手段をより広くPRし、空港利用者の増加を図ります。
- ・国道443号（大津町～菊陽町）の4車線化や県道堂園小森線の整備、空港地下道の耐震化等、阿蘇くまもと空港周辺の道路ネットワークの機能強化を推進します。
- ・益城町の町道テクノ工業団地線（国道443号～テクノ仮設団地）や町道農免道線（空港南側アクセス道路）等空港周辺道路の整備によりリダンダンシーの確保を図ります。
- ・朝夕の渋滞が慢性化している熊本市内中心部とのアクセスの定時性・速達性確保に向け、東バイパス交差点の立体化・鉄道軌道の検討等ソフト・ハードの両面から対策を検討していきます。
- ・阿蘇くまもと空港への主要なアクセスルートである第2空港線については、豊かな景観を維持しながら、今後も定時性・速達性の確保に努めます。

## ●広域防災拠点としての機能強化

今回の熊本地震の経験を踏まえ、市町村と連携し九州の安全安心を支える広域防災拠点として、周辺の広域施設を含め更なる機能強化に取り組みます。

(主な取組例)

- ・被災した空港ターミナルビルの復興に当たり、耐震性を強化し、大規模災害時の広域防災拠点施設としての整備を進めます。なお、耐震性については、ターミナルビルが多くの旅客者が利用する施設であること、また、大規模災害発生時に災害対策の指揮や情報伝達の機能などを担うものとして、重要度係数1.25以上の確保等を図ります。
- ・現在、別々に運用されている県警ヘリと県防災消防ヘリの一体的運用を行うために、格納庫の合築により総合航空防災センター（仮称）を整備します。
- ・大規模災害時の支援・救援物資の受入機能を強化するため、空港敷地内への備蓄倉庫の配置等を国に対し要望・協議します。
- ・空港周辺地域が一体となって広域防災拠点機能を担えるように熊本産業展示場（グランメッセ熊本）や熊本県消防学校、熊本県民総合運動公園陸上競技場等の各施設の連携を図るとともに、市町村と連携して施設の整備や機能強化を推進します。
- ・広域防災拠点施設であるグランメッセ熊本の耐震強化及び施設の機能強化を進めます。
- ・広域防災拠点として位置付けられている熊本県消防学校の災害訓練施設等の機能強化を推進します。
- ・全国の防災・減災のモデル地域となるよう、防災・減災産業に関わる試験研究機関の誘致や地域企業のBCP策定を支援する等により、防災・減災産業に関わる企業等の集積を進めます。

## 産 業

## 新たな産業や雇用の創出

- 柔軟な制度運用による農商工連携・6次産業化促進や地域資源を活用した新事業の展開
- ICT等の活用による時流を捉えた新たな産業の創造
- 空港やIC、阿蘇の玄関口としての利点を活かした観光産業の振興・発展

### ●立地特性を活かした産業の集積

阿蘇くまもと空港や益城熊本空港IC等の交通結節点・広域交流拠点をもつ立地特性を活かし、新たな産業の集積や新事業の展開に取り組みます。

(主な取組例)

- ・阿蘇くまもと空港のゲートウェイ機能を活かした広域交流拠点として空港南側エリアの有効的な活用を検討します。
- ・地域未来投資促進法(仮称)に基づく支援措置を活用することにより、様々な産業の創出・発展につなげます。
- ・益城町道グランメッセ木山線沿線において、柔軟な制度運用による農商工連携・6次産業化を促進します。
- ・熊本県産業技術センターの産業技術拠点としての更なる高度化を図り、官民協働による研究開発や中小企業への技術支援機能の強化等により、地域イノベーション創出に向け取り組みます。
- ・地域の企業と県内大学等の研究機関との共同研究による本県の豊かな自然環境や資源を活用した自然共生型産業(アグリ・バイオ・ヘルスケア・食品加工・環境・水等)の展開に向けて支援を行います。
- ・阿蘇くまもと空港や益城熊本空港IC等への利便性を活かした物流企業の誘致のほか、集積が進んでいる半導体・自動車関連産業に加え、医療、食品関連産業等の成長分野の企業誘致に取り組みます。
- ・グループ補助金により企業の早期復旧を支援するとともに、地域に根差した企業等への経営支援により、地域の活性化を図ります。
- ・全国の防災・減災のモデル地域となるよう、防災・減災産業に関わる試験研究機関の誘致や地域企業のBCP策定を支援する等により、防災・減災産業に関わる企業等の集積を進めます。(再掲)

## ●ICT、IoT を活用した新たなサービスの展開

産業の活性化や利便性向上につながる ICT、IoT 等を活用した先駆的なモデル事業の実施を検討し、新たなサービスの展開に先導的に取り組みます。

(主な取組例)

- ・ICT、IoT 等を活用した自動運転やシェアリングエコノミー等のモビリティモデル事業等の実施を検討し、スマートモビリティ社会の構築に向けた取組みを推進します。
- ・環境配慮型の低コストEVバスの導入に向けた取組みを支援し、将来的な普及を目指します。
- ・基幹産業である農業の成長産業化に向けて、地域の先進的な農業者や関連企業等と連携し、ICT等の先端技術を活用した省力化や高品質生産、大規模経営等を可能にする取組みを支援します。

## ●観光産業の振興・発展

阿蘇の玄関口として、沿道の緑や田園風景等地域の特色を活かした観光産業の振興及び発展に取り組むとともに地域の活性化に取り組めます。

(主な取組例)

- ・阿蘇くまもと空港ターミナルビルを、熊本への第一次アクセス及び地域への第二次アクセスの結節点並びに情報発信拠点として明確に位置付け、その機能を果たすための体制を整備し、阿蘇くじゅう国立公園をはじめとした阿蘇への誘客を促進します。
- ・空港周辺・阿蘇地域における震災経験等の情報発信の取組みを進めます。
- ・地域の特色を活かした観光振興を官民が連携して取り組み、空港利用者が楽しく滞在することのできるような新たな観光資源を創造する投資を促すとともに、雇用を生み出します。
- ・空港の玄関口と位置付ける肥後大津駅に阿蘇くまもと空港をイメージさせる愛称を付けることにより、新たな人の流れをつくり、周辺地域の活性化を図ります。
- ・阿蘇くまもと空港から熊本市内へ通じる第2空港線の植栽改良や空港周辺道路の屋外広告物の規制を継続し、沿線の景観保全・美化に努めます。

くらし

## 住みたい、暮らしやすい地域の実現

- 災害に強く、安全安心なまちの実現
- 利便性が高く、生活しやすいまちづくり

### ●住民サービス向上及び高質な生活空間の整備

災害時の防災拠点となる公共施設等の機能強化や、被災したインフラの復旧、新たなまちづくりによる住民サービスの向上及び高質な生活空間の整備に取り組みます。

(主な取組例)

- ・災害に備え市町村庁舎や公民館等の公共施設の耐震化、防災センターや備蓄倉庫等の整備を支援します。
- ・宅地崩落や液状化、亀裂・陥没、擁壁崩落等の宅地被害の復旧に向けた取組みを支援します。
- ・災害時に広域的な避難施設となる機能的な防災公園等の整備及び配置の取組みを支援します。
- ・被災者に対して自立再建住宅の情報を提供するなど「すまい」再建の支援や、市町村に対して、被災者の孤立等を防ぎ、新しいコミュニティの形成や高齢者等に配慮した災害公営住宅の建設を支援します。
- ・狭い道路の解消や公園の適正配置をはじめとする密集市街地の改善や、拠点地域への都市機能集積に向けた市街地の再構築の取組みを支援します。
- ・道路、河川、砂防、下水道等の公共土木施設の復旧を図るとともに、計画的な整備や必要な耐震対策、戦略的な維持管理・更新を徹底します。
- ・商工業等の産業が集積している熊本市と生活圏、経済圏を一体的に形成する地域であり、かつ、阿蘇の玄関口としての地域特性を有していることから、良好な環境と生活利便性それぞれの地理的優位性を活かした移住定住施策を促進します。
- ・商店街等災害復旧等事業やグループ補助金等の活用により、買物や地域コミュニティ形成の場となる商店街等の再生とにぎわいの創出を支援します。



## ●交通の利便性向上

災害に強い道路ネットワークの強靱化や生活を支える公共交通の充実を図るとともに、渋滞の緩和、定時性確保など、暮らしやすい地域を実現するための交通の利便性向上に取り組みます。

(主な取組例)

- ・熊本都市圏都市交通マスタープランにおいて、骨格幹線道路網に位置付けられた県道熊本高森線(益城町広崎～寺迫)4車線化の取組みを推進します。
- ・西原村中心部と益城町とをつなぐ生活道路でもある県道熊本高森線の通行止め区間(杉堂地区)の早期解消を図ります。
- ・南阿蘇観光の大動脈である県道熊本高森線俵山ルート of 早期機能回復(国の直轄代行事業)に向けた取組みを進めます。
- ・益城町内の仮設団地用に新設したバスルートを含め、町民のニーズに対応した路線バス網を検討します。
- ・熊本都市圏都市交通マスタープランに位置付けられた基幹公共交通軸の1つである益城・空港方面における公共交通の乗換拠点整備の取組みを支援します。

## ●医療福祉の充実

誰もが安心して暮らせるよう、地域医療の担い手となる医療機関の再生や、先端技術を活用した医療福祉の充実に取り組みます。

(主な取組例)

- ・総合周産期医療等の政策医療を担うとともに、地域のかかりつけ医を支援してきた熊本市民病院の早期再生への取組みを支援するとともに、地域医療提供体制の充実強化を進めます。
- ・地域の医療機関・介護事業所等において、患者情報の共有や施設連携を推進し、質の高い医療・介護サービスの提供を図る「くまもとメディカルネットワーク」の構築を推進します。
- ・今回の震災からの復興活動によって培われた地域の絆や関係機関とのネットワーク力を活かした多様な在宅サービスの創造を促進し、地域包括ケアシステムのモデル的展開を図ります。
- ・「熊本県復興リハビリテーションセンター」による仮設住宅等における介護予防の取組みの充実・強化などを通じ、生活不活発病対策やコミュニティづくりを推進します。
- ・ICT等を活用した健康づくり(スマートヘルスケア)等のパイロット事業を実施し、健康保持・増進とコミュニティの活性化の取組みを推進します。

## 第5章 創造的復興の実現に向けて

本構想の核となるコンセッション方式の導入による民間の知恵やノウハウを活用した阿蘇くまもと空港の活性化は、地域経済へも大きく波及していくものと考えています。

この阿蘇くまもと空港の創造的復興が、空港周辺地域の可能性を最大限に広げ、良い影響を及ぼし、民間投資を促進するような環境になっていくよう取り組みを進めていきます。

そのため、今後も空港周辺地域の被災地の状況や復興に向けた考え方、市町村の復興計画を踏まえるとともに、被災市町村間の連携強化・相互の協力体制を図るよう、市町村や関係機関などとの意見交換を積極的に行い、創造的復興を実現します。